

1 趣 旨

平成21年度に実施したアンケート調査に関して、当所の支援の在り方や保護者の意見について質問紙による追加調査および、電話によるインタビュー調査を行うことにより、当所が果たしてきた役割や支援の在り方をさらに検証する機会とし、今後のより一層の支援の充実を図る。

2 実施状況

(1) 送付対象者数

967人

- ・平成8年度から平成20年度までの間に、但馬やまびこの郷を利用した児童生徒のうち、中学校を卒業した15歳以上の者
- ・上記の者のうち、平成21年度利用者アンケート調査において、宛先不明で返送された者及び、本人死亡1名、送付を希望しない者1名を除く

(2) 有効送付数

930通（967通の内、住所不定などによる返送37通）

(3) 回答返送数

91通 ※その他、手紙6通（いずれも回答用紙に添付）

(4) 回答率

9.8% $(91 \div 930 \times 100)$

(5) 有効回答率

9.7% $(90 \div 930 \times 100)$ ：保護者が回答された1通を除く

3 集計について

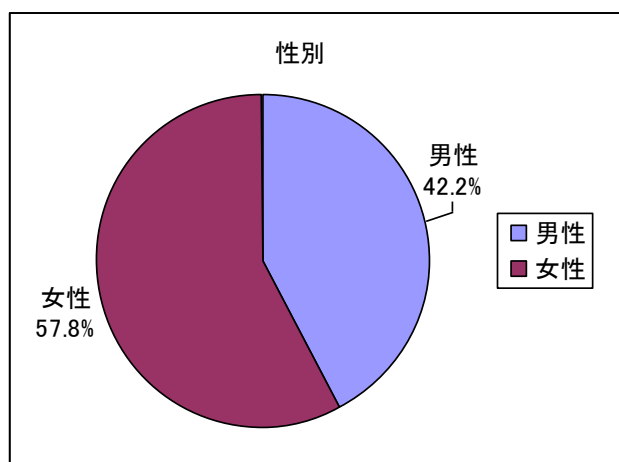
本調査の集計については、「各質問項目の単純集計」を行った。

- ・保護者が回答した者を除く、90名を対象とした。
- ・1つだけの回答を求めている質問に対して複数の回答がある場合は、そのまま集計した。
- ・自由記述に複数の意見が含まれていた場合は、要素ごとに分け、それぞれを1つの回答としてカウントした。

4 回答者について

(1) 性別

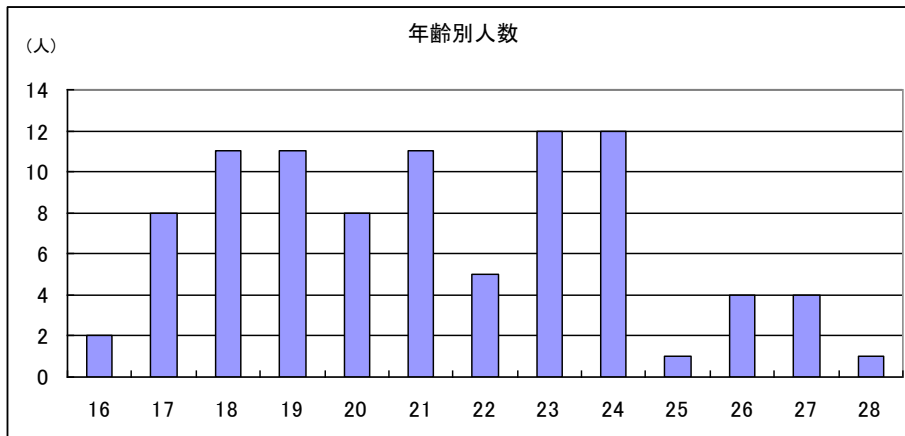
有効回答者のうち、男性は38名(42.2%)で、女性は52名(57.8%)である。



(n=90)

(2) 年齢（平成 22 年 10 月 30 日現在）

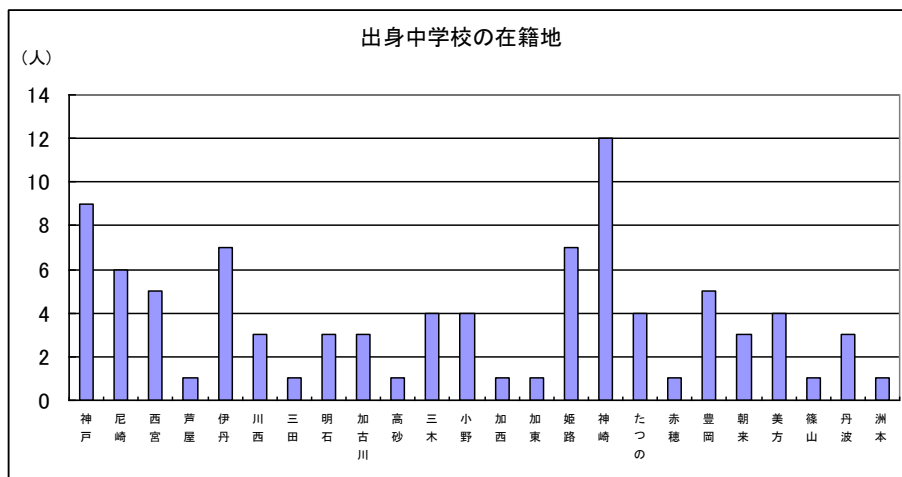
有効回答者のうち、「23 歳」と「24 歳」がそれぞれ 12 名で最も多く、「25 歳」と「28 歳」が 1 名で最も少ない。最年少と最年長の年齢差は、12 歳である。



(n=90)

(3) 出身中学校の在籍地

回答者が卒業した中学校の所在地についてみると、「神崎郡」が 12 名で最も多く、次いで「神戸」が 9 名であった。



(n=90)

I 但馬やまびこの郷の有効性に関すること

1 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりについて

- (1) 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりで良かったこと
「優しく接する」「明るく楽しく接する」「丸ごと受けとめる」など、温かい雰囲気を受けとめられたことが良かったと感じている者が多い。
- (2) 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりでさらに望むこと
「個々への相談の時間を設ける」が最も多いので、利用回数や状況に応じて、さらにきめ細かに相談に応じていく必要がある。

2 フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりについて

- (1) フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりで良かったこと
「優しく接する」「明るく楽しく接する」とともに、良き相談者として「いろいろな話をする」ことが良かったと感じている者が多い。
- (2) フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりでさらに望むこと
「自分の経験談を話す」が最も多く、次いで「話しやすい雰囲気をつくる」ことを望む者が多い。

3 但馬やまびこの郷を利用する際の適切な人数について

4人～10人ぐらいの人数が適切であると感じている者が多い。

4 但馬やまびこの郷を利用して、再登校に役立ったことについて

半数以上が「同年代の子との交流」と回答し、「心の癒しや居場所」、「スタッフやフレンドリーサポーターのかかわり」と回答した者も多い。

5 但馬やまびこの郷及び適応教室の特徴について

- (1) 但馬やまびこの郷の特徴
「宿泊できること」が最も多く、さまざまな「体験活動」や「自然豊かな環境」とする声も多い。
- (2) 適応教室の特徴
「家の近く」にあつて「毎日通える」こと、「同じ友だちとかかわれる」こと、「自主性を尊重」してもらえることなどとする声が多い。

II 不登校対応に関すること

1 高校の中途退学や進路未定について

- (1) 中途退学した理由
「人間関係のつまずき」とする者が最も多く、次いで「学校の雰囲気になじめなかった」「意欲がなくなった」が多い。
- (2) 進路未定の理由
「意欲がなかった」が最も多く、「人間関係がうまくいかなかった」「能力が不足していた」「生活習慣が身に付いていなかった」などが多い。
- (3) 中途退学や進路未定の時、必要な支援
「継続的に通える関係機関を紹介」することや、「心のケア」、「進学や就職についての情報提供」をすることが必要である。

2 社会的に自立するために必要な力や支援について

(1) 社会的に自立するためにつけておきたい力

最も多いのは「コミュニケーション力」とする意見である。さらに、「学力」や「基本的な生活習慣」「社会性、協調性」などを身につけることを望んでいる。

(2) 社会的に自立するために必要な支援

「人との交流」を図りながら、「教育相談の充実」「学習の支援」を望む声が多い。

Ⅲ 保護者アンケート

1 但馬やまびこの郷の支援で役立ったことについて

「自然豊かな環境」の中で「宿泊」しながら「いろいろな体験」ができること、「温かい人間関係」の中で「人とのコミュニケーション」が図れることが役立ったとする声が多い。

2 但馬やまびこの郷にさらに望む支援について

一人でも多くの不登校児童生徒とその保護者の力になるよう「広報活動を充実」させることや、「相談体制の充実」「進路情報の提供」などが求められている。

1 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりについて

(1) 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりで良かったこと〈問1-(1)〉

図1は、当所のスタッフのかかわりで良かったことについて尋ねた結果である。

「優しく接する」「明るく楽しく接する」ことを評価する子どもが圧倒的に多い。学校に行けない状況の中で、心に不安や悲しみを抱いて来る子どもたちが、温かい雰囲気を受けとめてほしいと望んでいることが分かる。4番目に多い「丸ごと受けとめる」と合わせ、今後のスタッフの対応の在り方について、しっかりと認識しておきたい結果である。

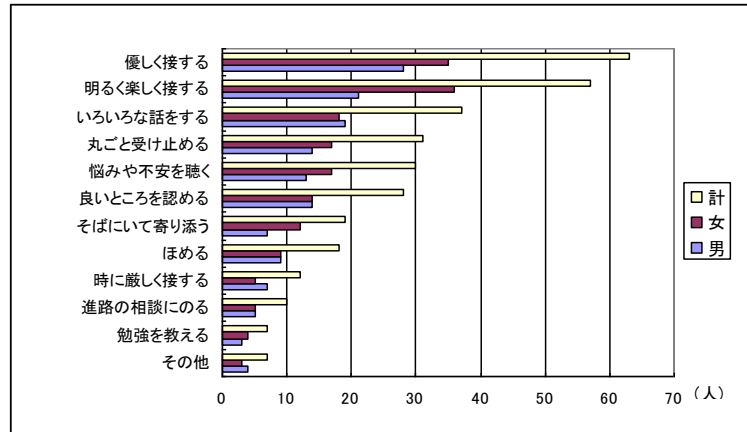


図1 スタッフのかかわりで良かったこと (n=88)

続いて「いろいろな話をする」が多い。食べ物、芸能、ファッションなど、スタッフは子どもたちの興味や関心に合わせて話をする。時には、冗談を言って笑わせたり、学校や進路のことについて真剣に話をしたりもする。また、「悩みや不安を聴く」も多い。スタッフは、人間関係や学習など、子どもの話にしっかりと耳を傾け、必要に応じてアドバイスもしている。子どもたちにとって、スタッフは安心できる話し相手になっていると言えるだろう。

「よいところを認める」「褒める」も評価を受けている。当所では、子どもたちのがんばりや良さをできる限り見つけようと努力している。スタッフのこうしたかかわりが、子どもにも認められている結果となっている。

なお、自由記述には、「児童生徒の前では明るく振舞い、親の前では子どもについて真摯な態度で接する点が良かった」「ちゃんと子どものことを見てくれる人がいると思い、安心した」などがあつた。

(2) スタッフのかかわりでさらに望むこと〈問1-(2)〉

図2は、スタッフのかかわりで、さらに望むことについて尋ねた結果である。

「個々への相談の時間を設ける」が最も多い。当所では、子どもと活動を共にしながら、興味・関心のあること、学校のこと、不登校になった経緯などを聞いている。また、利用回数や状況に応じて、個別の相談時間を設け、再登校や進路についての話をすることもある。今回の調査結果を踏まえ、利用回数や状況に応じてさらにきめ細かく相談を行う必要があると考えられる。

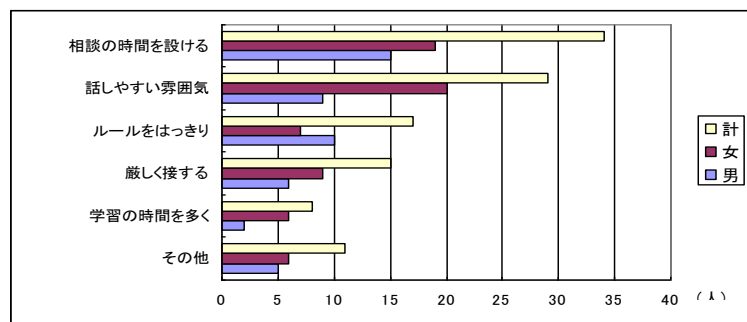


図2 スタッフにさらに望むかかわり (n=88)

また、「話しやすい雰囲気をつくる」ことを望む声も多い。笑顔をやささない、無理強いしない、ゆったりと待つなど、スタッフは平素から心を開きやすい雰囲気づくりに努めているが、一層の努力が必要である。

なお、自由記述には、「一人一人にあつたかかわりをする」「マジックが得意な人、折り紙を上手に折る人など、スタッフのキャラ付けをしたらどうか」「やまびこタイムをもう少し延ばしてもいいのではないかと」「携帯電話の持ち込みなど、禁止令を出し過ぎると引きこもる可能性がある」などがあつた。

2 フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりについて

(1) フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりで良かったこと〈問1-(3)〉

図3は、フレンドリーサポーターのかかわりで良かったことについて尋ねた結果である。

スタッフに関する設問と同様に、「優しく接する」「明るく楽しく接する」という回答がとても多い。さまざまな人間関係で傷ついた子どもたちを、大人がどう受け入れるべきなのかを考えさせられる。

また、スタッフ以上に「いろいろな話をする」ことを良かったとする声が多い。年齢の近い学生ボランティアに、スタッフ以上に親近感を抱いているものと思われる。将来のことや進路、恋愛など、今後もフレンドリーサポーターが、良き相談者として果たす役割は大きいと言える。

なお、自由記述として、「ボランティアと生徒という関係ではなく、1人の人間対人間として接してもらえたのがよかった」「自分はこんな人になりたいと思った。目標になった」「年齢が近いことで話しやすかった」などがあつた。

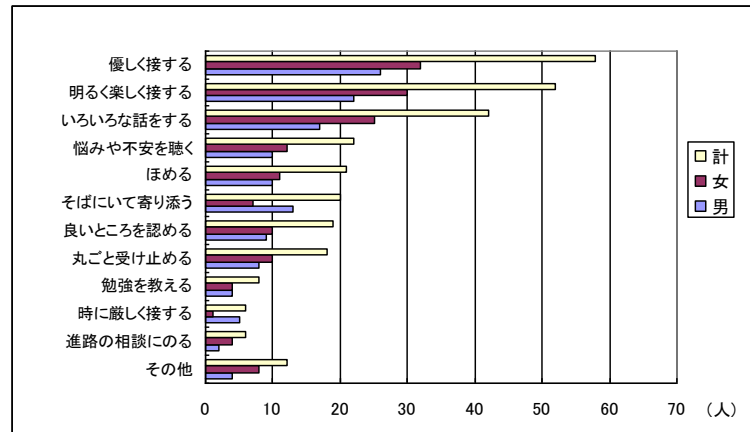


図3 フレンドリーサポーターのかかわりで良かったこと (n=86)

(2) フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりでさらに望むこと〈問1-(4)〉

図4は、フレンドリーサポーターのかかわりで、さらに望むことについて尋ねた結果である。

最も多かったのは、「自分の経験談を話す」であった。当所の利用者は、フレンドリーサポーターを将来の「モデル」としている面が伺える。進路、恋の悩み、友だちのことなど、先輩としての生の声を聞きたいと強く思っている。また、スタッフには打ち明けられないことも、フレンドリーサポーターに伝えていることがしばしばある。子どもにとって、こうしたメンタルフレンドの存在は大きく、また、フレンドリーサポーターも子どもとのかかわりを通して多くの学びを得ている。

今後も、こうした意見を踏まえ、子どもの支援のあり方についてフレンドリーサポーターに伝えていきたい。

なお、自由記述として、「男性のサポーターは男子に、女性のサポーターは女子にという感じだったので、いろんな人を知るという点で男女関係なくかかわってもらえる機会があればよかった」「特定の人に話しかけるだけでなく、一人一人まんべんなく話しかけるといいと思う」「男女共にいろいろなタイプの人がいれば参加者が接しやすい」「一人で部屋の端にいる子には、無理に喋らなくてもいいから輪の中に入れてあげてください。それだけでその子は変わるかもしれません」などがあつた。

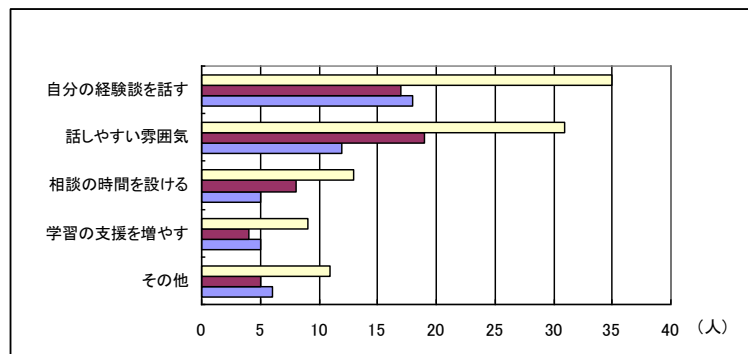


図4 フレンドリーサポーターにさらに望むかかわり (n=86)

スタッフやフレンドリーサポーターのかかわりについて、男女別で見ると、男性が「時に厳しく接する」ことを良かったとし、「ルールをはっきりさせる」ことをさらに望む傾向があることが分かる。こうした特徴を踏まえ、今後の支援のあり方についても検討することが必要である。

3 但馬やまびこの郷を利用する際の適切な人数について

但馬やまびこの郷を利用する際、一緒に宿泊する適切な人数〈問1-(5)〉

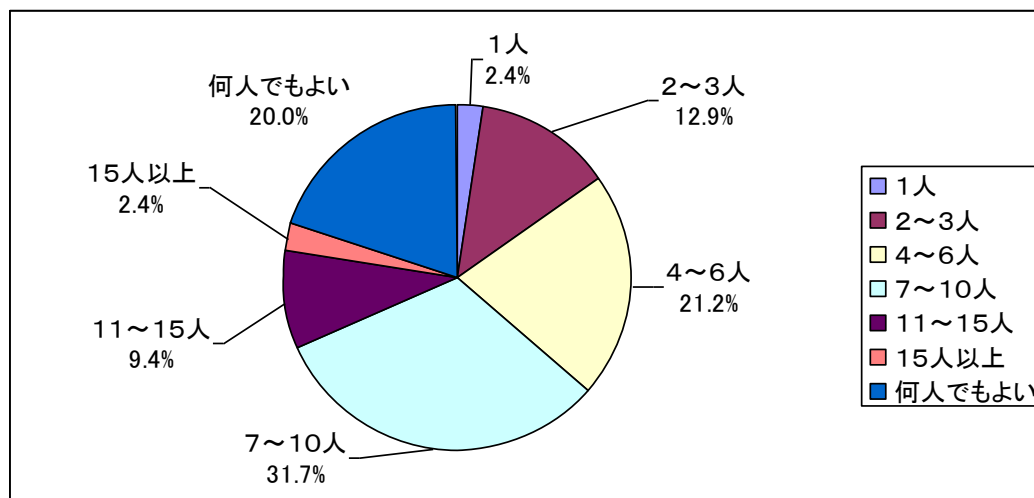


図5 一緒に宿泊する適切な人数 (n=73)

図5は、「当所を利用した際、一緒に宿泊する利用者は何人ぐらいが良かったか」について尋ねた結果である。

最も多いのは、「7～10人」(31.7%)である。理由として、「人の顔を覚えやすい人数」「多すぎると関係が浅くなるし、少なすぎると気の合う子がいない場合困る」「人数が多いとグループができるから」「スタッフの目の届く範囲の人数がいい」「適度な人数の方が、より話す機会も増えるしボランティアともかかわりやすい」などがあつた。

続いて「4～6人」(21.2%)が多い。理由として、「一人一人と話せると思うから」「比較的、個人個人との親密な関係を築いていける」「多いと話を聞いてもらえないかと不安。少なすぎると会話に困りそう」「少人数だと皆とつても仲良くなれる」などがあつた。

このように、少なすぎず多すぎない人数として、「4～6人」「7～10人」が選ばれている。当所としても、子ども同士の人間関係が活性化し、いろいろな子とかかわりが持てる人数ではないかと考える。

また、「1人」(2.4%)、「2～3人」(12.9%)を選んだ者は、「『集団』とまではいかない、ちょうど良い人数」「多いより少ない方が打ち解けるのが早い」「少ない方が楽」「1人は寂しく、大人数では入れない」という意見がある一方で、「11～15人」「15人以上」を選んだ者は、「様々な人と出会いたいので10人以上。あまり多くなると收拾がつかない気がするので15人以下」「少ないと特定のグループから外れると他のグループに行けない。多いと個々のグループ内で仲間外れが起きる」「多い方が気の合う友だちを作れる可能性が大きくなる。反面、最初は人がいっぱいいるのがこわい」などの意見があつた。

当所における利用者の様子から考えると、人間関係で傷ついて十分その修復が図れていない場合や、長く引きこもりの状態が続いて集団生活から離れていた場合などは、少人数を望む傾向があり、不登校の回復期で本人に十分エネルギーがたまっている場合や、別室登校、適応教室の利用など、平素から集団生活に慣れている場合は、多人数を望む傾向があるのではないかとと思われる。

当所では、子どもの状況と利用予定の人数を考え合わせて、利用の相談に応じている。特に、初めての利用や、じっくり本人と向き合う時期と判断した場合などは、少人数の週を勧めている。今後も、今回のアンケート結果を踏まえて、受け入れ人数による長所、短所を伝え、利用の相談に応じていきたい。

4 但馬やまびこの郷を利用して、再登校に役立ったことについて

但馬やまびこの郷を利用して、再登校に役立ったこと〈問1-(6)〉

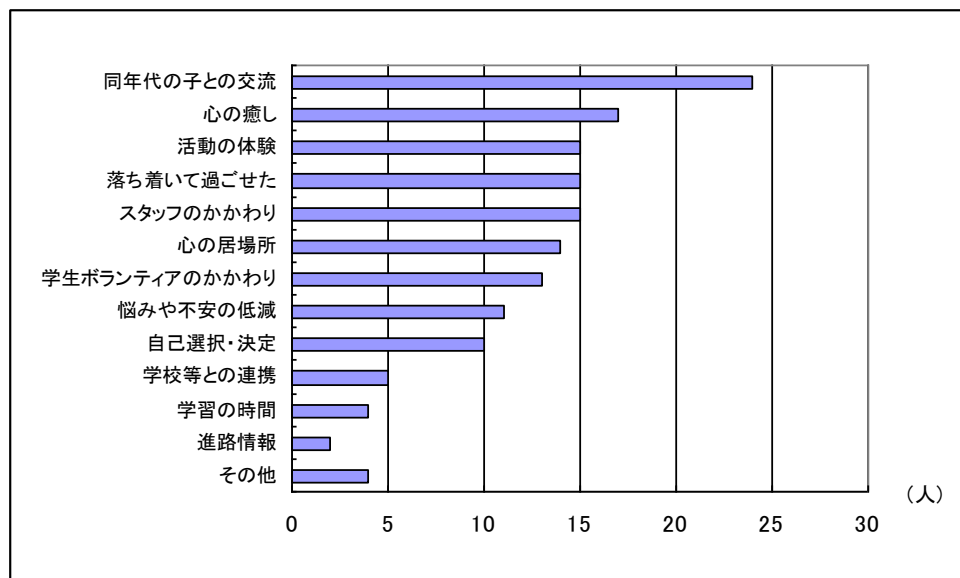


図6 やまびこの利用が再登校に役だったこと (n=45)

図6は、「やまびこの郷の利用を通して、再登校に向けてどんなことが役に立ったか」について尋ねた結果である。

最も多いのは、「同年代の子との交流」で、半数以上を占めている。自宅に引きこもっている、あるいは、別室や適応教室など、限られた人間関係の中で過ごすことの多い子どもたちにとって、寝食を共にし、遅くまで部屋で語り合う経験は、何ものにも代え難いものになっていることが分かる。

「心の癒し」「心の居場所」「落ち着いて過ごせた」などの回答も多い。不安や悩み、傷ついた心を抱えながらやってくる子どもたちにとって、当所がやすらぎの場となっているのは嬉しいことである。

また、「スタッフのかかわり」「フレンドリーサポーターのかかわり」を挙げる声も多い。問1-(1)や問1-(3)で回答のあったように、「丸ごと受けとめ、不安や悩みを聴き」、「優しく、明るく楽しく接する」ことで安心し、「よさを認め褒めてもらう」ことで自信を回復していったものと思われる。

こうして見ると、人と人との豊かな関係の中で子どもたちがエネルギーをためることが、再登校のために大きく役立っていると考えられる。

一方、当所のさまざまな「体験活動」や、その中で培われる「自己選択、自己決定」の力を挙げた声もあった。当所では、まず、さまざまな活動に参加するかどうかという本人の意志を大切にしている。また、製作やスポーツなどの活動内容についても、できる限り自分で選択や決定をするように促している。子どもたちは、自分のやりたいことに夢中になることや、いろいろな活動に思い切り取り組むことで、心のエネルギーを充電し、再登校への足がかりにしていると考えられる。

なお、自由記述として、「家族と離れることができたので、今まで親に頼りきりだったこと（ポットのお湯を入れる、部屋の片付けなど）でも、自分でもできることを知り、自信につながった」「悩んでいるのが自分一人ではなく、自分だけが特別な状態でないということに自覚できた」などがあつた。

5 但馬やまびこの郷及び適応教室の特徴について

(1) 適応教室の利用〈問2〉

図7は、当所を利用していった当時、適応教室に通っていたかどうかを尋ねた結果である。約半数の子どもたちが、適応教室を利用していったことが分かる。

当所の良さである「普段できないさまざまな体験をする」「新しい人間関係を築く」などを生かして、今後も適応教室との連携を図っていきたい。

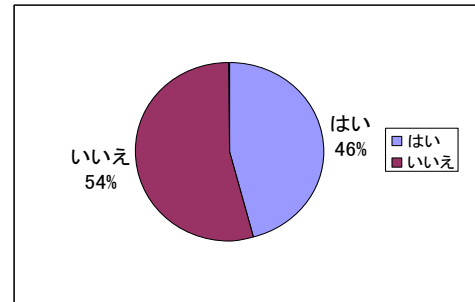


図7 適応教室の利用 (n=90)

(2) 但馬やまびこの郷の特徴〈問2-(1)〉

図8は、適応教室との比較における当所の特徴について尋ねた結果である。

最も多いのは、「宿泊できること」である。「友だちと風呂」に入ったり、日に三度の「食事」をきちんと摂ったりすることなど、生活の場そのものを提供している当所の役割は大きいといえる。

次に多いのは、さまざまな「体験活動」や「自然豊かな環境」である。

広い運動場や体育館など、整った施設・設備、各活動に必要なスポーツ関係の道具、製作の材料、週替わりの調理メニュー、四季を感じさせる豊かな自然環境など、子どもたちの心を癒しながらいろいろな体験ができる環境が十分に整っていることが、利用者の満足感につながっているものと思われる

また、「家族と離れて生活できること」や「生活習慣を変えられること」にも意見が集まった。家族と離れることで、利用者自身が重圧や期待感から解放されたり、自立に向けて意識が高まったりするのではないかと考えられる。

なお、自由記述として、「他校生と交流ができる」「毎回いろいろな人とかわれる」「スタッフと向き合って話せること」などがあつた。

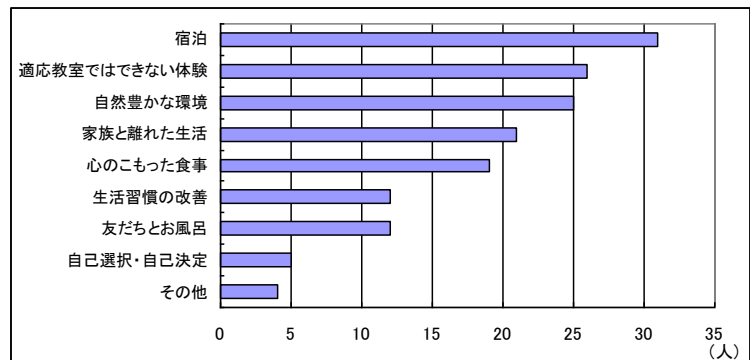


図8 但馬やまびこの郷の特徴 (n=45)

(3) 適応教室の特徴〈問2-(2)〉

図9は、当所との比較における適応教室の特徴について尋ねた結果である。

多かったのは、「毎日通える」「家の近くにある」とした回答であつた。毎日、自分の行く場所があるということは、子どもたちにとって非常に大きな意味がある。

また、「同じ友だちとのかわり」を挙げている者も多い。当所のように、新しい出会いを経験することも重要だが、人間関係をじっくり深めることも大切である。

さらに、「自主性の尊重」も適応教室の特徴としてとらえられている。生活上の問題を自分たちで解決したり、活動内容を自分たちで相談したりする中で、社会性が高まっているものと思われる。

なお、自由記述として、「もっとも学校に近い空間」「地元の友だちができる」「1日の生活リズムを作る」「学習を解りやすく指導してもらえる」などがあつた。

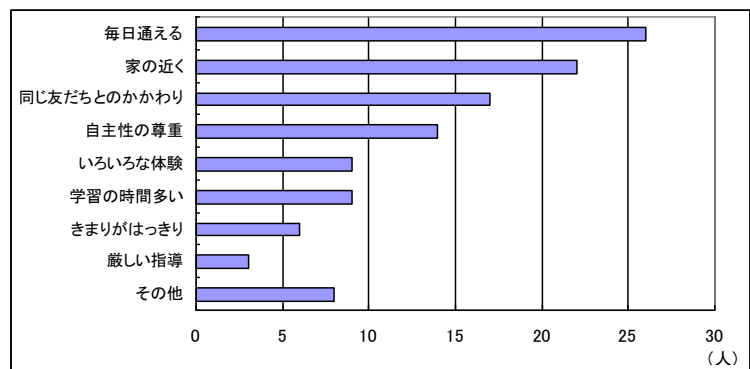


図9 適応教室の特徴 (n=45)

1 高等学校の中退、進路未定について

(1) 高等学校の中退、進路未定の状況について 〈問3〉

図10は、中学卒業後、高等学校へ進学したが中退した、あるいは進学や就職が決まらない状態が続いたかどうかについて尋ねた結果である。

全体の13.8%にあたる12人が高等学校の中退を、また6.9%にあたる6人が進路未定の状態を経験している。

このことは、当所のような関係機関において再登校や進学への支援を行ったにもかかわらず、就学や就職において不適応を起こしている者がいることを示しており、あらためてその支援の在り方について検討することが必要であると考えられる。

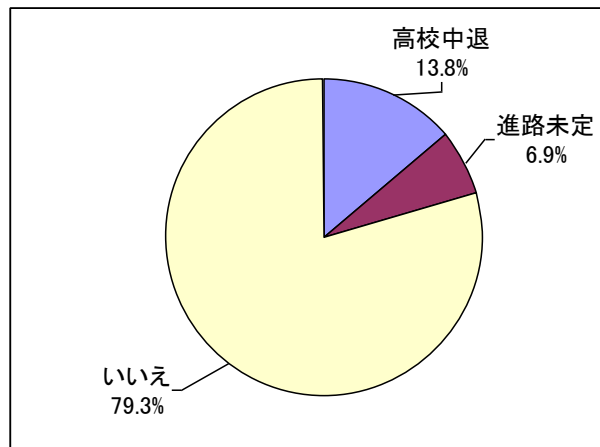


図10 高校中退・進路未定の状況 (n=87)

(2) 中途退学の理由について 〈問3-1〉

図11は、高等学校を中退した理由について尋ねた結果である。

最も多いのは、「他の人とうまくかかわることができなかった」という人間関係の問題である。中学校における不登校の要因において、友人関係が多いことから、学校や当所において、人間関係を築いていく力をどう育成するかということに目を向けていく必要があると考えられる。

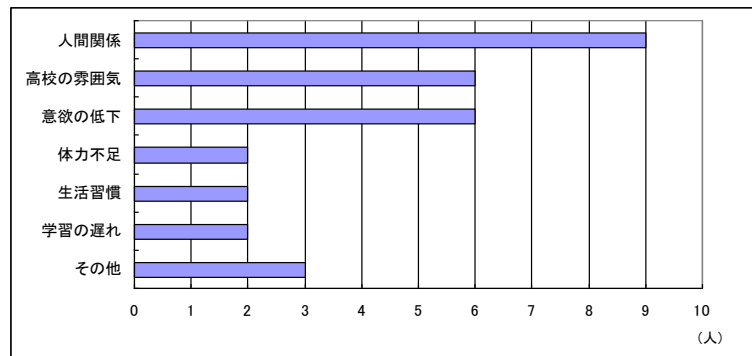


図11 高等学校中退の理由 (n=12)

次いで多いのが、「高校の雰囲気に

なじめなかった」「登校する意欲がなくなった」と答えた者である。これらの理由としては、「新たな人間関係の構築におけるつまずき」「学業の遅れ」「遠距離通学の負担」などが考えられる。小・中学校在学中に、できるだけ早く再登校・教室復帰をめざすとともに、学業の遅れに対する支援が必要であろう。また、当所の利用を通して、全く知らない者と宿泊体験活動をする中で、新しい人間関係を構築することに対する抵抗や不安を軽減し、自信を深める支援も有効であると考えられる。

なお、「その他」とした自由記述では、「通学の道のり・乗り継ぎがとても大変だった」「その後、通信単位制の学校に編入した。そういった学校もあるのだというアドバイスがほしかった」「全く勉強しなかったのですすがに無理だと思い中退した」などの回答があった。進路に関する情報を提供し、適切な進路指導を行うことも重要である。

(3) 進路未定の理由について 〈問3-2〉

図12は、中学校卒業後、進学や就職が決まらない状態が続いた理由について尋ねた結果である。

最も多いのが、「進学したり働いたりする意欲がなかった」とする回答である。不登校やひきこもりなど、社会とのつながりが少ない(少ない)状態が長く続くと、社会生活を送ろうとする意欲自体が乏しくなることを表している。

次いで、「生活習慣が身に付いていなかった」「仕事をする能力が不足していた」「他の人とうまくかかわることができなかった」が続く。これらを見ても、基本的な生活習慣、コミュニケーション力、学力などを小・中学校においてしっかり身につけておくことが、不登校や引きこもりを未然に防ぐために重要であることが分かる。

なお、「その他」の自由記述では、「就職したが、能力・人間関係のかかわり方が分からず、半年もせずに退職した」「金銭面のこともあった」などがあつた。

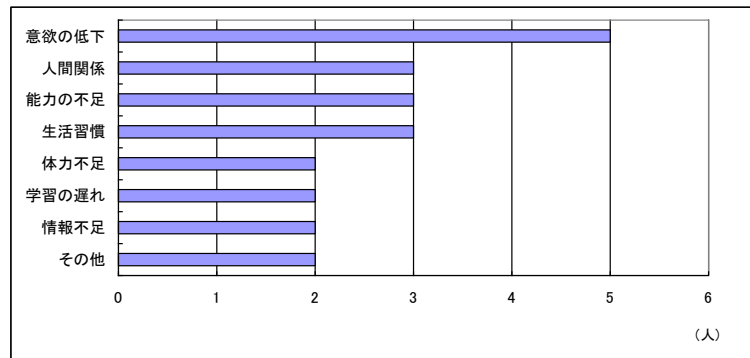


図12 進路未定の理由 (n=6)

(4) 中途退学・進路未定の状態で必要な支援 〈問3-3〉

図13は、中途退学や進路未定の状態になった時、どんな支援が必要か尋ねた結果である。

最も多いのは、「継続的に通えるような施設や関係機関の紹介」である。当所や各市町の適応教室など、様々な体験や他の人とのかかわりのできる場所を求めていることが分かる。学校や各種相談機関との連携を密にし、子どもたちに必要な支援を行うことが望まれる。

次いで、「心のケア」とする者が多く、不登校やひきこもりが長く続くほど精神的なケアを必要としていることが分かる。

また、進学や就職に関して「情報提供や相談」を望む声も多い。社会と離れがちになることで、情報が極端に少なくなり、そのことがさらなる隔絶を生むという悪循環に陥っていると考えられる。また、中学校卒業後は、相談できる機関が少ないということも影響していると思われる。不登校やひきこもりであっても、気軽に相談でき、情報を得られるような支援窓口の設置が必要である。

なお、「その他」の自由記述として、「中学までは相談にのってもらえ助かったが、高校生では利用できないと言われ、とても不安になった」「トライやる・ウィークの大人版があればいい。働くことに不安があるので前もって体験できると嬉しい」などがあつた。

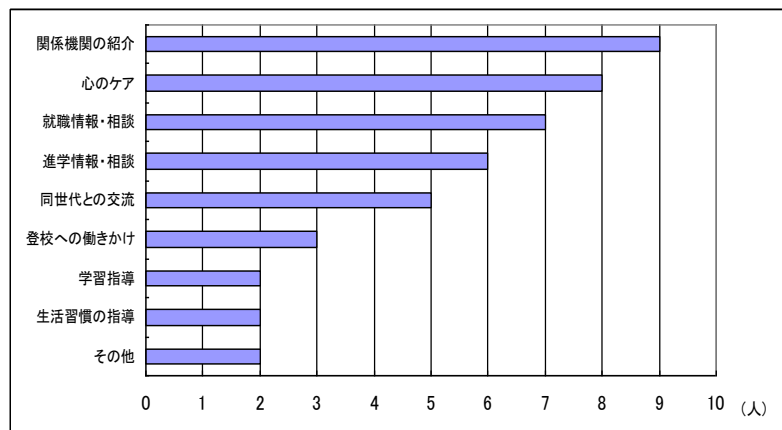


図13 中途退学・進路未定者に必要な支援 (n=18)

2 社会的自立のために必要な力や支援について

(1) 進学・就職を通して社会的に自立するためにつけておきたい力 <問4>

図14は、社会的に自立するためにつけておきたい力についての回答を類型化してまとめたものである。

最も多いのが、「コミュニケーション力・人間関係力」(37名)、あるいは「社会性・協調性」(9名)といった、人間関係に関する力である。小・中学校における不登校の要因として、友人関係が高い割合を占めているが、中学校卒業後の生活においても、人間関係をどう築いていくかということが重要な要素として認識されていることに注目したい。家庭において

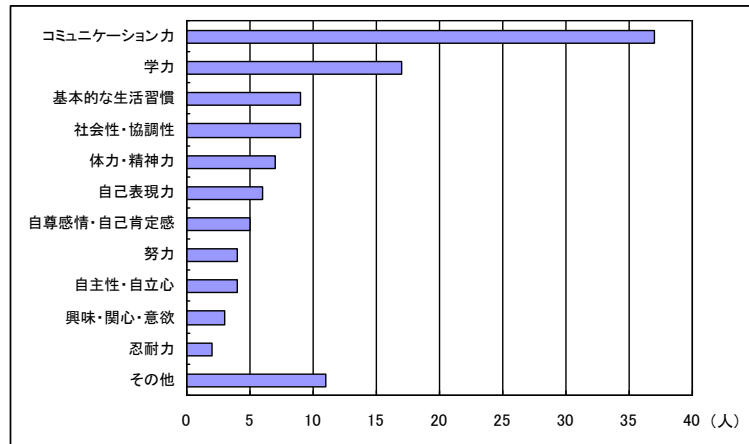


図14 社会的自立に必要な力(n=80)

は、心の居場所として安心感を与えることやあいさつなど基本的なコミュニケーションの基となる力をつけることが、学校においては、学級活動や特別活動などの時間を活用して、子ども同士のつながりをさらに深めることが、そして、当所においても温かい人間関係の中で生活させることで、人と自信をもってかかわる力を伸ばすことが、それぞれ重要であると考えられる。

次いで、「学力」(17名)という回答が続く。進学しても学力の遅れで中退する、希望する進路先に進めない、仕事上で能力不足を感じるなどの状況に直面することが予想される。学習習慣をしっかりと身につけ、基礎学力を定着させることが求められる。

「基本的な生活習慣」や「一般常識」が必要との回答(9名)も多い。起床や就寝、食事などの生活リズムを規則正しくすることや、人間関係を円滑にする挨拶・返事・言葉遣いなどを身につけることが重要である。当所では、朝7時起床、夜10時就寝で、その間に活動、食事、休憩(やまびこタイム)などが組み立てられており、自然に規則正しい生活が送れるようになっている。利用者からは、生活リズムの改善に効果があったという声も聞かれる。今後も、こうした生活の場としての機能を充実させていきたいと考える。

また、「自尊感情・自己肯定感」(5名)、「自己表現」(6名)という意見もあった。自分に自信を持ち、自分を好きになり、周りの人に自分のことを伝えていくことが大切である。当所においてもさまざまな体験を通して達成感や成就感を味わわせ、その成長やがんばりを認め、褒めることで自信をつけさせる取組を継続していきたい。

以下、具体的な記述をいくつか記載する。

- ・他人とかかわる能力が大事だと思う。コミュニケーション力があれば、大抵のことは切り抜かれる。
- ・いろいろな体験をし、多くの人と交わり多彩な考え方ができるようにする。
- ・勉学に励む時間と、友人と遊んだりリラックスしたりする時間のメリハリをつけておくと社会に出たとき助けになる。
- ・高校生になり、身にしみたのは「学力」。当時はしんどくて勉強できなかったが、もっと勉強すれば良かった。
- ・甘えていた自分が言うのもなんだが、不登校の人に対する対応が甘すぎると思う。絶対に心のどこかに甘えがある。もっと厳しく接してもいいと思う。
- ・自分自身というものをいかに客観的に見つめることができるか、そして、その自分を認めることができるかだと思う。
- ・まわりの目をできるだけ気にせず、自分の意見をしっかり持ち、それを発言できること。

(2) 進学・就職を通して社会的に自立するために必要な支援 <問5>

図15は、社会的に自立するために必要な支援についての回答を類型化してまとめたものである。

まず、「温かい励まし・言葉かけ」(6人)や「身近な人のかかわり」(6人)が求められている。家族や先生、友人など、周囲の人々が温かく見守り、声をかけ続けることが、大きな力になると考えられる。

最も多いのが、「人との交流」(16人)である。このこ

とは、社会的自立に必要な力として「コミュニケーション力」や「人間関係」などが最も多かったことと関連している。家族以外の人間との交流が希薄となり、望んでいてもなかなかその機会がないものと思われる。不登校の時期にこそ、当所のような関係機関などにおいて、家族以外の人間や同世代の子との交流の機会を提供することが非常に重要である。また、具体的な記述の中で、同年代との交流のみならず、大人との交流が必要であるとの意見があることにも注目したい。社会的自立のためには、自分のことを理解し守ってもらっただけでなく、厳しさや多様な価値観に触れることの重要性を当事者自身が感じているのである。

「相談体制の充実」(11人)を望む声も多い。スクールカウンセラーの配置や、各種相談窓口・電話の設置、関係機関、医療機関など、相談できる場所は増えてきているものの、「どこに相談したらいいのか分からない」「相談することを躊躇する」など、悩んでいる人は多いと考えられる。各相談機関がさらに広報に努めるとともに、身近な支援者が適切な機関を紹介するなど、一層の努力が必要である。

人との交流や体験、相談の場所として、「関係機関の利用」(8人)がある。適応教室や当所において、さまざまな活動や交流を体験したり、親と離れて生活したり、一人一人に応じたサポートを受けたりすることが、大きな力になると考えられる。

さらに、「学習の支援」(10人)も大きな課題である。不登校生の学校復帰・教室復帰において、学力の遅れは高いハードルの一つとなっている。また、意欲が十分にありながら、学習の機会が得られない場合もある。いつの時点からでも遅れた学習を取り戻し、再チャレンジする方法や場所を具体的に示すことが重要である。

また、「社会適応」(7人)や「社会体験」(3人)を必要とする意見もあった。社会人として生きていくために必要なルールやマナーを理解し実践することや、職業体験、就労に必要な技能や体力を身につけることなど、社会的自立を望んでいることが分かる。

以下、具体的な記述をいくつか記載する。

- ・普段は見守って、手助けが必要だと思ったときに積極的に話しかけてほしい。
- ・話を聞いてもらったり、手紙をもらったり、背中を押してもらえることで、皆の中に入れた。
- ・同世代だけでなく大人とかかわる機会を作る。子どもの時からいろんな人とかかわることでコミュニケーション力がつき自信もつく。
- ・精神面でつまづいてしまった時に気軽に立ち寄れる「場」があれば、比較的楽に思えるのではないか。(保健室や適応教室、人によっては児童相談員など)
- ・登校できなくても学習が好きな人も少なくないので、学習したい子にはその機会を与える。
- ・興味のあることを見だしその人の個性を生かした進路を一緒に探すこと。
- ・生活習慣、マナー、エチケットなど、躰に関する支援
- ・社会体験(お金儲けの厳しさや仕事に対する考え方のようなことを教わる機会)

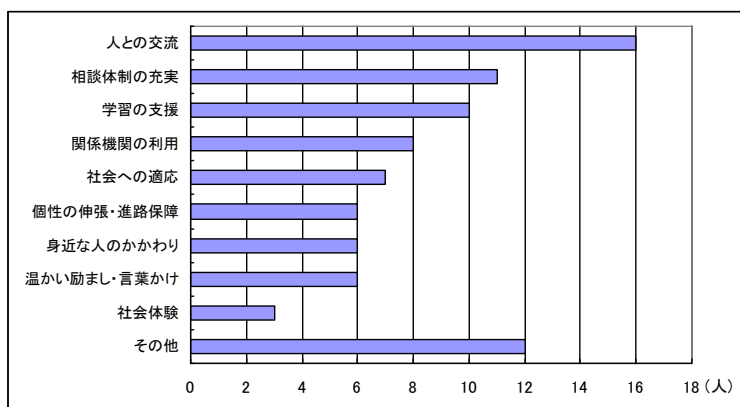


図15 社会的自立に必要な支援 (n=70)

不登校や但馬やまびこの郷について 〈問6〉

「不登校に関することや但馬やまびこの郷に関すること」について、考えや思いを自由に書いていただいたものを列挙する。

(1) 不登校について

- ・不登校になったことに関しては、今となってはしょうもない小さな理由だったと思う。その当時は、この世の終わりというくらい悩んだり、考えたり、嫌になったりした気がする。自分が悪いのに「自分が一番不幸だ」などと思っていたと思う。でも、ちょっとしたことで解決したのに、と今では思う。
- ・不登校は、人の人生を狂わせるように思う。年々、精神が不安定になっていく。傷は、一生残るのではないか。現時点では解決していない。
- ・4年生頃「先生の後ろにおばけが見える」の一言で不登校になってしまった。本当はいいのに、その一言でなってしまった。
- ・不登校になったことで、多くの人とかかわることができたと思う。だからこそ、今、いろんな考え方ができると思う。一番辛かった時期があって、今、幸せだなと感じることは多い。
- ・不登校であっても、自分自身が変わろうと思えば行動すれば、進学も就職もできる。不登校の自分がいたからこそ、今の私が存在する。今思えば、当時は悩み苦しき…たくさんあった。自分というものについてじっくり考え、友だちの大切さや心強さをたくさん感じるすることができた。心に余裕ができ、本当の自分と向き合うことのできた時間だったと思う。当時は、不登校であることに負い目を感じていたが、今ではその経験を生かしているいろいろな人とかかわり、寄り添い、毎日楽しく生きている。
- ・不登校は、誰にでも起こる可能性があることなので、大騒ぎしたり特別視したりしないでほしい。一番大切なことは、心を開いて話せる存在（カウンセラーなど）に出会えることだと思う。
- ・大学を卒業し、縁合って児童関係の仕事に就き、かかわった子どもを通じて当時を振り返ってみることもあったが、これはこれで良かったなと思えてくる。当時は友人関係で頑張りすぎる面があったので、息抜きの時間も必要だったのだろうと思う。
- ・どんな理由であれ、「不登校」は、学校に行かなくなった時点で時間が止まると思う。外との関係が無くなるとやっぱり損じゃないだろうか。私の場合、夜に遊ぶなど、反抗ばかりしていた。高校に行ってから後悔も少しあり、もっと「将来何がしたいか」「どうなりたいのか」「そのためには今何をすべきか」を考えとけば良かったと思う。
- ・何が理由で不登校になったのか、どうして立ち直れたのかはわからない。立ち直れる時期は必ず来るので、それを逃さないのが一番大事。今までどのような経験をしてきたのかなど、話をする機会があれば、一つの経験談として話をしてあげたい。
- ・不登校になった原因よりも、親や学校がもっと話をする機会を持つことが大事。
- ・不登校自体が悪いことではない。問題はその後どう行動するか。
- ・皆が同じ勉強をするのではなく、得意な科目や興味のある科目を勉強する時間があればよい。

(2) 但馬やまびこの郷について

- ・不登校の子がのんびりできる。やまびこの郷のような所が増えてほしい。
- ・心の拠り所になった。
- ・気持ちが変わる。
- ・温泉に入れる。運動ができる。
- ・学校から離れて親子でいろいろできて良かった。
- ・今は、体験が全てよかった。幸せな今がある。
- ・自分の生活サイクルが他の人と違っていたが、やまびこの郷では同じ人達が多くいたと思う。
- ・親とは違った人の意見や考え方を聞き、自分自身の力で進んで行くことは良いことだと思った。

- ・中2の時のことを今ふり返ると、正直バカみたいだなと思う。やまびこの郷に行ったことで得たものも多いと思う。
- ・やまびこの郷のおかげで中学にも行けるようになったし、無事に行けば来年で高校も卒業できそうだ。私のような頼りない人間に手を差し伸べてくださった「やまびこの郷」に本当に感謝している。これからも頑張ってください!!
- ・やまびこの郷に行き自分自身とじっくり向きあえ、たくさんの方の温かさに出会えた。不登校だった過去を隠そうと思わなくなった。
- ・同年代の人との接する（話す）場があるといい。
- ・少しお世話になっただけにわざわざアンケートを送っていただきありがたい。偉そうな言い方になってしまうが、これからも「やまびこの郷」は「やまびこの郷」であってほしい。そう強く願う。
- ・当初「所詮、軽い旅行だろ」と思い行ってみたら、予想以上に楽しく心のリフレッシュになった。いつもの生活とは違う刺激的な5日間を送れて良かったと思う。
- ・自分は、不登校になり良かったと思う。やまびこの郷に行き、会うことのない人に出会え、友だちになれて嬉しいから。
- ・自分が不登校ということに負い目を感じていたが、やまびこの郷で出会った人々とかかわるうちにこれも自分の人生と思え、前向きになった。
- ・私の場合、親が早期に入所を決断し、親子共々不安の中での入所に踏み切ったことで、同じもしくはもっと大変な方の状況を知ること自分たちの現在いる状況を受け止め、本人にとっては自分だけが大変なのだという気持ちをなくすことができたことが大きかったと思う。
- ・不登校は悪くない。やまびこの郷を知らない人があると思うので、学校が不登校で悩んでいる子に紹介してあげてほしい。
- ・悩みや学校などで嫌だと思っていることが必ずあると思うので、怒らず話を聞いてあげることが大切だと思う。自分は、やまびこの郷で体験したことや学んだことがあって今の自分があるので、ぜひいろんな人にやまびこの郷についてもっと知ってもらえたらいいと思う。
- ・誰もが、自分が不登校になるとは思わないと思う。私自身も、小・中1と楽しく過ごしてきたので、不登校にまさか自分になってしまうとは思わなかった。あれだけ傷つき、辛い思いもしたのに、今では経験できてよかったというより、やまびこの郷に出逢えてよかったとすごく思う。友だちを信じられなかった自分が、やまびこの郷に出逢えた友だちは今でもたくさんつながっている。こういう場所を知ったことで、私はすごく救われた。不登校の方で知らずにいる方も多いと思うので、もっとやまびこの郷を多くの人に知ってもらいたいと思う。
- ・「4年前から知っていたら」と思うことが多かったのも、多くの不登校やいじめにあっている子どもたちや親たちに、やまびこの郷を知ってほしいと思う。自分の中で、やまびこの郷は自分を知る場所であった。時には厳しく、それ以外は優しくしてもらえるので自分のことを理解してもらっているとすごく感じた。ここで出会った人、先生に感謝の気持ちでいっぱいである。
- ・不登校の理由は、一人一人異なると思う。だから、不登校生に対する接し方を一つに絞らないでほしい。その子の個性をどのように伸ばしてやったらよいか考えるべきだと思う。そのために、家族と離れて生活して、その子の本当の姿を見ていく場として、やまびこの郷は適していると思う。
- ・不登校についての理解は、なかなか難しい問題だと思う。決してあきらめず、ゆっくり見守る気持ちを保護者が持つには時間がかかる。多くの子どもが輝いて生きていけるよう、今後も長期的に見守り支援していただくと有難い。
- ・私は、不登校であったことを全く後悔していない。自分自身を見つめる良い機会となり、私の人生の内の貴重な財産である。私は、子どもの頃から車が好きで、エンジニアになりたいと思い大学に入り、大学院にも進学が決まっていたが、やまびこの郷での経験を通じて、私は本当にしたい「教師」という道までも見つけることができた。これらは、全て「やまびこの郷」に出会えたからこそだと思う。本当に「やまびこの郷」にかかわる全ての方に感謝している。今思うと、これら全ての過程が運命だったのかなと感じる。ものすごく不安を感じたりもするが、自分の経験を生かして「学

校とは何か?」「良い教師とは何か?」を日々探求しながら邁進して行きたいと思う。

- とにかく、人間は人に会えば、自分自身の良い所や悪い所を見つけたり言われたりするものだ。そこで、『わたし』を作り上げていくのである。つまりは、いろいろな人と出会わなければ、不登校の子ども一人では、変わろうにも変わるのとはとても困難だと思う。僕は、結果的にやまびこの郷以外にもお世話になったが、きっかけはやまびこの郷だった。やまびこの郷を利用するようになってから人生が変わった。当時、ひきこもりだった僕の運命を左右した友だちとの出会い。ここには書ききれないくらいある思い出。何を書いて終わらせればいいのかわからない。やまびこの郷楽しかった!
- 非常に有難いと思っている。宿泊体験のおかげで吉備高原の寮生活にも耐えられる基礎ができたと思っている。不登校も人生経験の一つとして受け入れれば、親子共々楽になるのではないだろうか。高校・大学・専門学校と進んで社会へ出れば、過去のことはそう問われることもないだろうし、きちんと仕事をこなせば、それでいいと思う。社会へ放たれた時に挫折しない体力をつけるべきで、無理する時ではないはず。その充電ができるやまびこの郷をもっと多くの不登校の方に利用していただければと思う。
- 不登校の子は、少なからず孤独感を感じていると思うので、同世代の同じ境遇にある子たちと接することができるやまびこの郷は、よい経験ができる場所だと思う。学生ボランティアの方も、優しく受け入れてくれて居心地がよかった。
- 不登校生は、これからも増えると思うので、やまびこの郷のような所が必要となっていくと思う。他県にもこのような場所を増やしてほしい。
- 一度来ると、もう一度来たくなる。心が洗われるようだった。これからも不登校の支援に継続し活動されていくことを期待している。
- 不登校には色々な理由があるが、やまびこの郷での体験は良き思い出になるので、これからも不登校の子どものために頑張してほしい。
- 不登校だった僕にとって、やまびこの郷の存在は大変貴重なものだった。ここで学んだことは今でも多くの助けになっている。昔からのやり方を曲げないでいた方がいいと思う。
- やまびこの郷というところは、いつまでも置いておくべき場所だと思う。
- ずっと続けてほしい。
- やまびこの郷は、「学校に行かなくてもよい」というスタンスであってほしい。学校に行かなくても勉強もできるし、友だちも作れる。そういう生き方もあるんだということを学べる所であってほしい。
- 10年前のことなので今はどういった雰囲気かは知らないが、当時不登校児童について、より理解してくれていると感じたのは公立より私立の施設が多く、しかし、私立はお金がかかるので困った。県立なので仕方ないことかもしれないが、不登校児童に対して、学校へ戻すことが目的だとあからさまに言うのはやめてほしい。
- 将来的に見て、今居心地の良い環境を作るのが本当にいいか私は疑問を感じる。もっと厳しくてもいいと思う。これは私の個人的な考えだが、“出席日数が足りないと中学校を卒業できない”と決められていたら、何人かは自然と学校に行くと思う。
- もっと発達障害について勉強してほしい。
- 何か伝えることやイベントがあれば参加したい。このような場所があることを広く知ってもらいたい。

1 但馬やまびこの郷の支援で役立ったことについて（保護者）〈問12〉

図16は、当所を利用した児童生徒の保護者に対し、「但馬やまびこの郷において、どんな支援が役に立ったか」について尋ねた結果である。

最も多いのは、「いろいろな体験」である。料理、スポーツ、製作や山登り、カヌー、スキーなど、当所で実施している体験活動が、子どもたちの力になっていることを保護者も実感していると思われる。4番目に多い「自然豊かな環境」、「宿泊できること」と合わせ、集団宿泊体験活動の有効性が支持されている結果となっている。

また、2番目に多い「人とのコミュニケーション」や、3番目に多い「温かい人間関係」にも、当所の特徴が表れている。丸ごと受け止める、笑顔で接するなど、スタッフの姿勢ももちろんであるが、「同年代との交流」により利用者同士の間で育まれる温かい人間関係が、子どもの育ちを支えている。

さらに、「認め、褒められること」「自己選択・自己決定」など、当所が大切にしているかかわりを保護者にも認めていただいているといえよう。

今後は、「相談」をさらに充実させ、しっかりと保護者を支えながら、子どもの支援を継続していきたいと考える。

以下、自由記述を列挙する。

- ・自然の中で、温かいスタッフに優しい言葉をかけてもらえるだけで、子どもの心を開くことができる。
- ・一人ずつをスタッフが受け止めかかえてくれた。心と心で触れ合えた。
- ・学校に行けない同じ悩みをもつ子どもとコミュニケーションを取ることで、共感し合える。
- ・罪悪感でいっぱいの子が一時でものびのびできた。
- ・自分の置かれている場所から離れて自分を見つめ直すことのできる場所であり、一人で家族から離れて暮らし、自分の強さも実感できた。
- ・家庭では味わえないほど、食事がおいしかった。
- ・但馬やまびこの郷へ行く前に、地域やまびこ教室を利用してスタッフの対応などを体験できた。
- ・帰宅後もスタッフやサポーターの大学生から温かなお手紙をいただき大変励みになった。
- ・安心して子どもを送り出すことができる所だった。学校にも行けず、かといって家にいるのもしんどい子ども、それを見ている親も辛くて、4泊5日の間に親もリフレッシュさせていただき、また頑張ろうという気持ちを持つことができた。
- ・自分の子どものことも理解できずに悩んだが、やまびこの郷でゆったりと時間を過ごし、子どもへの理解を深めることができた。
- ・親の会で、他の保護者と交流できた。苦しい時、辛い時に仲間がいるのは心の支えになった。
- ・保護者同士の意見が交わせ、勉強になった。
- ・親同士が共通の話題を打ち明け合えたことで、元気を取り戻すことができた。

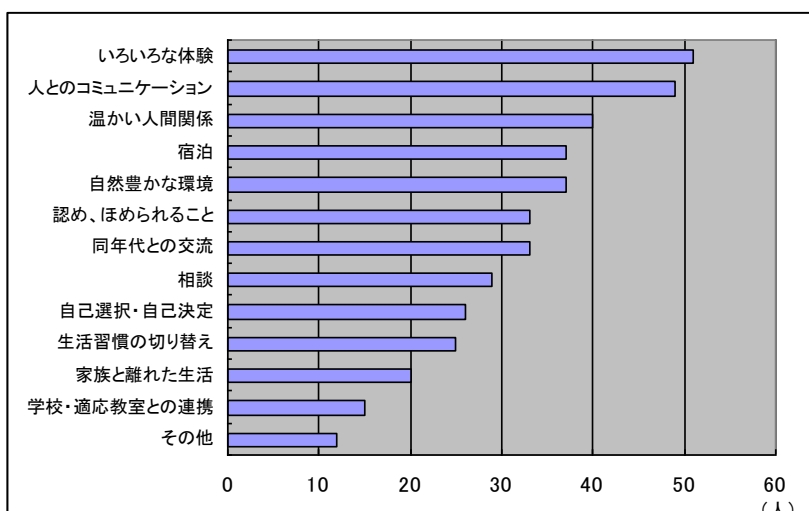


図16 但馬やまびこの郷の支援で役だったこと：保護者 (n=77)

2 但馬やまびこの郷にさらに望む支援について（保護者） 〈問 13〉

図 17 は、当所を利用した児童生徒の保護者に対し、「但馬やまびこの郷に対し、さらに望む支援」について尋ねた結果である。

最も多いのは、「より多くの保護者に存在を知ってもらえるよう広報活動に力を入れる」である。当所での体験の有効性を実感された保護者の方が、同じ悩みを持って苦しんでおられる方に一人でも多

く知ってもらいたいと願っておられることが分かる。アンケート以外でもこうした声を聞いているが、当所として嬉しいことである。今回の意見を真摯に受け止め、ホームページの充実や各種研修会での紹介の工夫など、今まで以上に広報活動に力を入れていきたい。

次に多いのが、「カウンセリング機能の充実」である。これまで、利用初回時には必ず相談を行い、以降は状況に応じて相談を行ってきた。今後は、再登校や進路に向けて、保護者とともに目標設定を行うなど、継続的、計画的な相談について検討する必要がある。

また、「進路情報の提供」を求める声も多い。「今の状況で、行ける高校はあるのでしょうか」という声に代表されるように、子どもや保護者にとって進路は最大の悩みであり関心事である。当所では、高等学校の一覧表を作成して手渡したり、各学校などのパンフレットを陳列したりするなど、情報提供に努めてきたが、今後も学校と連携しながら、情報提供や進路相談を続けていきたい。

その他、「学習支援の充実」など、今回の結果を当所の事業推進の参考としたい。

以下、自由記述を列举する。

- ・子どもが不登校の時は学習支援が一番と思ったが、現在高校生活を送る子どもの様子から、やまびこの郷では心をリラックスさせる遊びやスポーツが大切な気がする。
- ・やまびこの郷が駅から遠く、送迎の便がもう一回あればいいのと思った。
- ・但馬やまびこの郷を知らない方がたくさんいらっしゃる。親も子どもも最初に不安を増幅してしまう。早期に入所されることを私どもの経験からお伝えしたいと思った。
- ・自分もやればできるという自信だけでなく、そのモデルが近くにいればより飛び越えられる（クラスに入ることは飛び込む勇気が必要だと思われるので）ような気がする。
- ・今後就職し社会的に自立できるかとても不安だが、また相談にのっていただければうれしく思う。
- ・人間不信状態で人と接することに怯えている状況を理解し、やまびこの郷に行けない子どもたちにも働きかけができるようなことはないだろうか。
- ・現在不登校の保護者、今は元気になった不登校生の保護者など、いろいろ交えて話し合う。
- ・卒業しても「やまびこの郷」は親子共々、特別な存在である。やまびこフェスタの中で旧スタッフの方と交流できる同窓会的な場があればうれしい。
- ・小・中の教員がやまびこの郷で研修するなど、特に管理職への広報活動に力を入れる。
- ・教員が積極的にやまびこの郷と連携をとる。
- ・不登校といってもいろいろなのに、一括りにされて指導されているような気がする。最初に見極める力を先生方に持ってほしい。

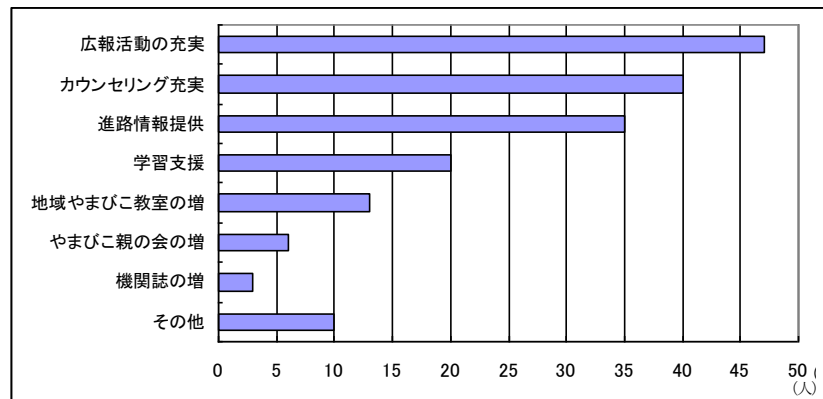


図 17 但馬やまびこの郷にさらに望む支援 (n=77)

但馬やまびこの郷「利用者アンケート」(追加)

平成22年9月

1 ご挨拶とお願い

このアンケート調査は、兵庫県立但馬やまびこの郷が不登校の児童生徒の支援の在り方を考えていくために実施するもので、但馬やまびこの郷を利用いただいた皆さんに直接、アンケート用紙を送付させていただいています。

趣旨をご理解の上、一人でも多くの皆様のご協力をお願いします。

2 アンケートご記入・ご返送いただく上での注意

- ◇ このアンケートには、送付あてのご本人及び保護者がお答えください。
未成年の方については、保護者の同意のもとにお答えください。
- ◇ ご記入は、黒鉛筆あるいは黒ボールペンをご使用ください。
- ◇ 質問は、「利用者の方へ」(問1～問11)と「保護者の方へ」(問12～問13)とがあります。質問への回答は、問1から順番にその質問文に従ってお答えください。
- ◇ 質問への回答につきましては、あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。選んでいただく○の数を質問文の末尾に()で示しています。その数だけ、あてはまる回答をお選びください。
- ◇ 「電話によるインタビュー調査」については、ご協力いただける場合にご連絡ください。
- ◇ ご記入いただきましたアンケート用紙は、お手数ですが、同封の返信用封筒(切手は不要)にて、平成22年10月15日(金)までにご返送ください。

利用者の方へ

問1 但馬やまびこの郷の利用をふり返って、その時の生活や活動についてお答えください。

〈すべての人にお尋ねします〉

(1) 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりで、良かった点は何でしたか？ あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。(○はいくつでも)

- 1 自分の存在を丸ごと受けとめてもらえた
- 2 いつもそばにいて、寄り添ってもらえた
- 3 悩みや不安を聴いてもらえた
- 4 優しく接してもらえた
- 5 時に、厳しく接してもらえた
- 6 明るく楽しく接してもらえた
- 7 いろいろな話をしてもらえた
- 8 自分のよいところを認めてもらえた
- 9 ほめてもらえた
- 10 進路の相談にのってもらえた
- 11 勉強を教えてもらえた
- 12 その他

〈すべての人にお尋ねします〉

(2) 但馬やまびこの郷のスタッフのかかわりで、さらに望むことがありますか？ あれば、あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。(○はいくつでも)

- 1 話しやすい雰囲気をつくる
- 2 学習の時間を多くする
- 3 個々への相談の時間を設ける
- 4 注意することがあれば、きつく注意するなど、厳しく接する
- 5 携帯の持ち込みを禁止するなど、ルールをはっきりさせる
- 6 その他

〈すべての人にお尋ねします〉

(3) フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりで、良かった点は何でしたか？あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。（○はいくつでも）

- 1 自分の存在を丸ごと受けとめてもらえた
- 2 いつもそばにいて、寄り添ってもらえた
- 3 悩みや不安を聞いてもらえた
- 4 優しく接してもらえた
- 5 時に、厳しく接してもらえた
- 6 明るく楽しく接してもらえた
- 7 いろいろな話をしてもらえた
- 8 自分のよいところを認めてもらえた
- 9 ほめてもらえた
- 10 進路の相談にのってもらえた
- 11 勉強を教えてもらえた
- 12 その他

〈すべての人にお尋ねします〉

(4) フレンドリーサポーター（学生ボランティア）のかかわりで、さらに望むことがありますか？あれば、あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。（○はいくつでも）

- 1 話しやすい雰囲気をつくる
- 2 学習の支援を増やす
- 3 個々への相談の時間を設ける
- 4 自分の経験談を話す
- 5 その他

〈すべての人にお尋ねします〉

(5) 但馬やまびこの郷を利用した際、一緒に宿泊する利用者の人数は何人ぐらいが良かったと思われませんか？ あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。(○は一つ) また、その理由を簡単に書いてください。

- 1 1人
- 2 2～3人
- 3 4～6人
- 4 7～10人
- 5 11～15人
- 6 15人以上
- 7 何人でも良い

理由

--

〈再登校できた人にお尋ねします〉

(6) 但馬やまびこの郷を利用した後に、学校へ再登校できた人にお尋ねします。
但馬やまびこの郷の利用を通して、再登校に向けてどんなことが役に立ちましたか？
あてはまるものを選び、その番号に○を付けてください。(○はいくつでも)

- 1 いろいろな活動が体験できたこと
- 2 同年代の子と交流できたこと
- 3 落ち着いて過ごせたこと
- 4 心の居場所になったこと
- 5 心が癒されたこと
- 6 悩みや不安が少なくなった(なくなった)こと
- 7 自分自身で選んだり、決めたりできたこと
- 8 スタッフに親身にかかわってもらったこと
- 9 フレンドリーサポーター(学生ボランティア)に親身にかかわってもらったこと
- 10 学習の時間があつたこと
- 11 進路の情報を得られたこと
- 12 学校や適応教室と連携を図ってもらったこと
- 13 その他

--

〈すべての人にお尋ねします〉

問2 但馬やまびこの郷を利用していた当時、適応教室に通っていましたか？（○は1つ）

- 1 はい → 問2-1・2に進んでください。
- 2 いいえ → 問3に進んでください。

〈問2で「1 はい」と答えた人にお尋ねします〉

問2-1 適応教室と但馬やまびこの郷を比べて、但馬やまびこの郷の特徴は何だと思われますか？
あてはまるものを選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

- 1 宿泊できること
- 2 友だちとお風呂に入れること
- 3 心のこもった食事が食べられること
- 4 適応教室では体験できない活動ができること
- 5 自分ですることを決められること
- 6 家族と離れて生活できること
- 7 生活習慣を変えられること
- 8 自然豊かな環境の中で過ごせること
- 9 その他

〈問2で「1 はい」と答えた人にお尋ねします〉

問2-2 適応教室と但馬やまびこの郷を比べて、適応教室の特徴は何だと思われますか？ あてはまるものを選び、その番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

- 1 家の近くにあること
- 2 毎日続けて通えること
- 3 同じ友だちとかかわり、仲良くなれること
- 4 学習の時間が多くあること
- 5 決まりがはっきりしていること
- 6 厳しく指導してもらえること
- 7 自分たちの自主性を大事にもらえること
- 8 いろいろな体験ができること
- 9 その他

〈すべての人にお尋ねします〉

問3 中学校を卒業後、高等学校等へ進学したが中退した、あるいは進学や就職が決まらない状態が続いたことはありますか？（〇は1つ）

- | | | | |
|---|--------------------|-------|-----------------|
| 1 | はい … 高校を中退した | ————→ | 問3-1・3に進んでください。 |
| 2 | はい … 進学や就職が決まらなかった | ————→ | 問3-2・3に進んでください。 |
| 3 | いいえ | ————→ | 問4に進んでください。 |

〈問3で「1 はい」と答えた人にお尋ねします〉

問3-1 中途退学した理由は何でしたか？ あてはまるものを選び、その番号に〇をつけてください。（〇はいくつでも）

- 1 登校する意欲がなくなった
- 2 学校に行く体力が不足していた
- 3 生活習慣が身に付いていなかった
- 4 学習が遅れていた
- 5 他の人とうまくかかわることができなかった
- 6 高校の雰囲気になじめなかった
- 7 その他

〈問3で「2 はい」と答えた人にお尋ねします〉

問3-2 進学や就職が決まらなかった理由は何でしたか？ あてはまるものを選び、その番号に〇をつけてください。（〇はいくつでも）

- 1 進学したり働いたりする意欲がなかった
- 2 学校や仕事に行く体力が不足していた
- 3 生活習慣が身に付いていなかった
- 4 学習が遅れていた
- 5 仕事をする能力が不足していた
- 6 他の人とうまくかかわることができなかった
- 7 進学や就職など、進路に関する情報が不足していた
- 8 その他

〈問3で「1・2 はい」と答えた人にお尋ねします〉

問3-3 中途退学や進路未定の状態になった時、どんな支援が必要だと思われますか？ あてはまるものを選び、その番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 カウンセリングや相談を通した心のケア
- 2 登校に向けた働きかけや手だて
- 3 継続的に通えるような施設や関係機関の紹介
- 4 学習指導
- 5 進学に関する情報提供や相談
- 6 就職に関する情報提供や相談
- 7 同世代の仲間との交流
- 8 規則正しい生活習慣の指導
- 9 その他

〈すべての人にお尋ねします〉

問4 中学卒業後、進学や就職を通して社会的に自立していくために、小・中学校の間にどのような力をつけておく必要があると思われますか？

〈すべての人にお尋ねします〉

問5 中学校卒業後、進学や就職を通して社会的に自立していくために、小・中学校の間にどのような支援が必要だと思われますか？

〈すべての人にお尋ねします〉

問6 不登校に関することや但馬やまびこの郷に関することについて、あなたのお考えや思いがあれば自由にお書きください。

問7 別紙の「電話によるインタビュー調査」への協力についてお伺いします。

- 1 応じてもよい
- 2 応じたくない

問8 但馬やまびこの郷を利用した学年についてお伺いします。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------|----------|
| 1 小学校1年生 | 7 中学校1年生 |
| 2 小学校2年生 | 8 中学校2年生 |
| 3 小学校3年生 | 9 中学校3年生 |
| 4 小学校4年生 | |
| 5 小学校5年生 | |
| 6 小学校6年生 | |

問9 あなたの性別

- 1 男
- 2 女

問10 あなたの年齢(平成22年10月30日現在)

() 歳

問11 あなたが卒業された中学校の所在地は、どこですか。

市・郡

保護者の方へ

問 12 但馬やまびこの郷において、どんな支援が役に立ちましたか？ あてはまるものを選び、その番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 宿泊できること
- 2 いろいろな活動が体験できること
- 3 同年代の子と生活できること
- 4 人とのコミュニケーションを経験できること
- 5 家族と離れて生活できること
- 6 自然豊かな環境の中で過ごせること
- 7 生活習慣を変えられること
- 8 温かい人間関係の中で過ごせること
- 9 良い所を認め、ほめてもらえること
- 10 自分で選んだり、決めたりするよう働きかけてもらえること
- 11 学校や適応教室との連携をとってもらえること
- 12 相談に乗ってもらえること
- 13 その他

問 13 但馬やまびこの郷に対し、さらに望む支援があればお聞かせください。あてはまるものを選び、その番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 1 学習支援に力を入れる
- 2 進路に関する情報を提供する
- 3 カウンセリングの機能を充実させる
- 4 保護者向け機関紙「やまびこ」の発行回数を増やす
- 5 「地域やまびこ教室」の開催地区や回数を増やす
- 6 「やまびこ親の会」の開催回数を増やす
- 7 より多くの保護者に存在を知ってもらえるよう広報活動に力を入れる
- 8 その他

ご協力ありがとうございました。

電話によるインタビュー調査

今後の但馬やまびこの郷の事業の充実を図るため、利用者の方を対象に、下記の内容について電話によるインタビュー調査を行いたいと考えています。趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

ご協力いただける方は、まずはお電話をください。折り返し、当所よりご連絡いたします。

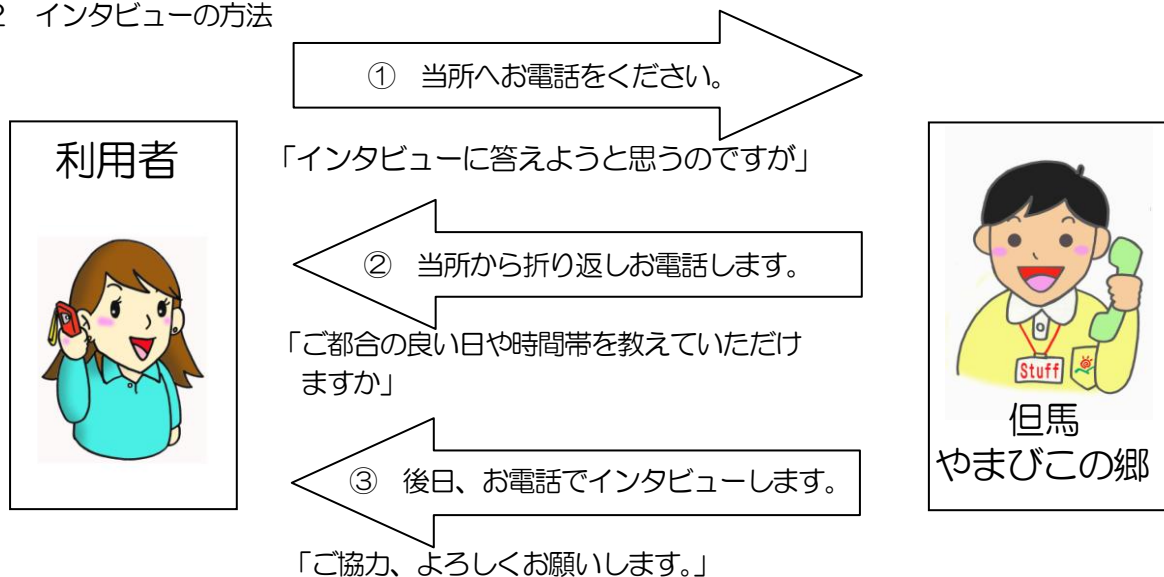
記

1 インタビューの内容

- (1) 但馬やまびこの郷について（役に立った支援、要望 など）
- (2) 学校について（役に立った支援、要望 など）
- (3) 保護者や家族について（思い、要望 など）
- (4) 進学や就職など進路について（役に立った力、必要な支援 など）
- (5) 現在の自分について（つけたい力、必要な支援 など）

※ 以上の内容全てにお答え頂く必要はありません。一つでもお答え頂けるようでしたら、ご連絡をください。また、お答え頂いた内容は、匿名性を厳守します。

2 インタビューの方法



※本来ならばご連絡先を書面で伺い、当所からご連絡させていただくべきですが、個人情報保護条例の規定により、このような方法を取らせていただくことをご了承ください。

3 インタビューの時期

平成22年9月下旬 ～10月下旬

連絡先 県立但馬やまびこの郷 指導課
兵庫県朝来市山東町森字向山 45-101
TEL 079-676-4724
9:30~17:30 (月~金)